

大池から瀬戸内海へ 豊かな農耕文化を育んだ川

弘田川の水源は大麻山と我拝師山^{がはいしさん}に挟まれた有岡地区の大池で、総本山善通寺や甲山寺の傍らを流れて瀬戸内海に注いでいます。

川の名は、我拝師山の北方の地「弘田」に由来し、昔この地が広田神社の神戸^{かんべ}（神社に所属してその経済を支えた民）であったことにちなんでいます。川は、平安時代の弘田郷があったあたりを流れていますが、その流域には弥生時代の遺跡が多いことから、この川

の恵みによって古くから農耕が行われていたことがわかります。

弘田川と金倉川に挟まれた中村町の永井遺跡からは、古代河川が発掘され縄文時代後期につくられた木杭の列が発見されました。自然木を50cmほど切ったもので、先端をとがらせ表面は腐食を防ぐため黒く焼いていることから、縄文当時にはすでに自然の河川などを生活に利用していたことがうかがえます。



弘田川の周辺では今も農業が盛んに行われています。

